

人権尊重の会だより

第 25号

令和6年(2024年)3月8日



津山市人権尊重都市宣言

- 人間の自由と平等の精神に基づき、信頼しあい住みよい都市をつくらう
- 人権を尊重し差別をなくそう

『コロナ禍を超えて』



希望高等学園津山校の清掃ボランティア活動

- ②～④ 特集：今の子どもたちについて考える
～子どもが主役 私たちにできること～
- ⑤ 今、人権尊重の会では…
 - ・江田島旧海軍兵学校の視察研修を終えて
 - ・人権尊重の教育推進協議会幹事研修会から
- ⑥・⑦ 関連団体の活動・行事
 - ・連合町内会の取り組みから (西苫田支部)
 - ・公民館紹介 (佐良山公民館)
 - 人権啓発視聴覚教材・出前講座のご案内
- ⑧
 - 津山市児童・生徒ポスター最優秀作品
 - ひと・ふれあいメッセージ2023
 - 編集後記

きんろうう感しやの日

広野小学校 3年 坂田 梨奈

きんろうう感しやとは、「たがいに
はたらくことに感しやし、生さんい
わい合う」ことです。

わたしは、

「きんろうう感しや、ありがとう。」

と言つて、お母さんのかたをたたま
ました。

すると、

「気持ちいい。もつとやつてえ。」

と言つたので、もう少しすると、

「ありがとう。気持ちよかつたよ。

ありがとう。」

わたしは、

「どういたしまして。」

と言つて、お父さんにやろうと思つた
ら、お出かけに行つていたので、また
今度やろうと思ひました。

津山西中学校 一行詩

お父さんよ いつも頑張つてくれてあ
りがとう。

1年 長岡 太一

友達よ！仲良くしてくれてありがと
う！これからもよろしくね。

1年 田淵 那月

母よ！いつも美味しいご飯を作つてく
れてありがとう！

2年 金堂優里菜

クラスのみんなよ！いつも助けてくれ
てありがとう！

2年 難波 侑也

人類よ！なぜ戦争するんだ！

2年 近藤 遼太

人生よ！運を味方にしてください〜！

2年 山川 颯大

お母さんよ！影で応援ありがとう！

3年 妹尾 美優

先生よ いつもいつもありがとう。

3年 大島 光樹

家族よ！毎日幸せをありがとう〜！

3年 河本 歩海

親よ！仕事おつかれさま。

3年 佐野 優揮

特集

今の子どもたちに ついて考える

子どもが主役
私たちにできること

5月25日、人権尊重の総合研修として、フォーラムを開催しました。パネラーとして鶴山塾・塚木規智次長、鳥越貴志主任、津山希望高等学園・小林和彦代表をお招きし、小林睦茂研修委員長がコーディネーター(CD)を務めました。

鶴山塾、希望高等学園の名前は知っていても、具体的な活動内容は知らなかったと言った声も多い中、子どもたちが抱えている問題や課題、将来に向けてのあり方を、共通の認識として伺うことができました。



パネラーの皆さん

とせよ」を基本姿勢として、人間関係を作りながら、安らぎの保障された安心の中で社会的自立への支援を行っています。しばらくの間は、週1回1時間から始めています。学校から鶴山塾への切り替え時間であったり、鶴山塾や担当職員になれもらうためです。鶴山塾はこの2者関係作りを最も重要にしているところではあります。

(希望高等学園) 現在約150名が在籍し、場所はサテライト津山の向かいです。学校に登校するのが苦手な子どもさん、人間関係を構築するのが苦手な方、発達障害・知的障害の方が9割を占めています。大学進学や就職支援の学習を中心とし、昨年度は進学・就職は90%以上の合格や内定を決めています。

本学は通信制高校が主体で、3年で卒業できます。週1日また毎日通学も可と幅を広げています。また、WEB学習コースでは、通わずに登校するタイプで、自宅で学習しながら教員の支援を受け卒業するコースもあります。

(CD小林) 本日参加いただいている皆様の約半数の方が鶴山塾を知っている、希望高等学園は3分の1ぐらいの方しかご認識がないことが分かりました。まずは、それぞれの特色や基本的なコンセプトについてお話しさせていただきます。

(鶴山塾) 学校や家庭以外の居場所になっており、子どもたちが自由に過ごせる空間となっているのが特色です。鶴山塾は「治そうとするより分かるう



鶴山塾 塚木次長・鳥越主任

(CD小林) どういうモチベーションで子どもたちが入ってきて、今ほどの状況で明るくなったのか、特徴的なことがあればお話しいただきたいと思っています。

(鶴山塾) 通塾開始当時は、人目を避けるようにして歩いて、すぐに個室に入り職員と2人になってゲームをする。うまくいかないとすぐに飽き、うまくできたりすると、とことん遊ぶ傾向にありました。人と接することに抵抗を感じていましたが、定期的に通うようになって、校外学習にも参加していくうちに、人目を気にせず遊べたり、他の塾生とも一緒にゲームなどができるようになり、楽しさも感じてきているようです。

また、昼夜逆転生活をしてきた子が、通塾するようになって規則正しい生活を取りもどしつつあります。普段は運

動する子ではないのですが、自分から進んで仲間に入ったり、「喉が渴いた、水ください」と自己主張もできるようなようになっております。

職員と料理を一緒に作ると調理が大変好きになり、魚の三枚おろしもきれいにでき、将来は料理人になると言っている子もいたようで、勉強以外の新しい自分を見いだせる場でもあります。

(希望高等学園) 基本的にはあまり会話がない状況で、黙々と学習するスタイルです。コンセプトとしては、安心して学習できる環境を整え学習できる場所を作っています。特段トラブルもなく、もちろんイジメなんかもありません。お互いを思いやってくれています。また、友だち関係を強制して作るのかではなく、それぞれ尊重し、教育活動を行っております。

入学前は大体が保護者からの問い合わせ、残りが担任の先生からです。本人は納得していません。親に言われたから、先生に言われたからと。無理やり連れてこられる子どもさんもいて、かわいそうだと思うことがあります。そこを教員が入り修正しながら、親も本人も同じ方向を向いて笑顔で卒業してくれる。そんな3年間なんです。在



希望高等学園 小林代表

学生に少しずつ笑顔を取れどもどしてくれて、自信も持ち最初から高校生活の楽しさを知ってもらっているといった現状です。

(CD小林) 今、塾生活、学校生活を送る中で、課題や問題が多々あると思いますが、何かあればお願いします。

(鶴山塾) 子どもたちは、今、悩みがないと言っていることが大きな問題で、自宅で過ごすだけの子どもたちが非常に多く、そういった子どもたちはスマホやゲーム依存等によって昼夜逆転生活が続いている子もいますが、本人には悩みがなく、周囲の大人には悩みの種となっております。そうすると、コミュニケーションがとれない子どもが増え、人とのつながりが希薄になったり、不登校を助長するような悪い環境に繋がっていきように思います。こういったことを無くすために、鶴山塾では保護者の会を通じ話し合い、納得いくルール作りをしていくように話し合いや調和を図っています。

(希望高等学園) 他の子と同じことが扱いたい。一緒に対応して欲しい。特別扱いして欲しくないと言われる。親か

らは「特別扱いして欲しい。うちの子はこうなんです。」ってよく聞くんですけど、実は私たちは全員特別扱いしてないんです。同じように対応して、同じように挨拶して、席も同じように伝えて、同じように会話して帰らせているんです。これが、今の津山の課題であり現状なんです。

また、無事に通えるようになり、勉強もできるようになると、保護者の方は入学時の頃の子どもの状況を忘れて、将来は、卒業は、大学は、就職は、と言われる。学園としては先のことじゃなくて、本人が今得意になっっていることを磨いていこうとお伝えしています。

(CD小林) 子どもたちのために私たちが何に気を付けて、何ができるのか、また保護者の皆さんにこういったことをやって欲しいということがあればお願いします。

(鶴山塾) 塾生と何でも話せる関係を作っていくのが一番ですが、保護者、祖父母と話をするのも大きな役割なんです。家庭ってみんなが居心地が良い場所じゃないとだめです。誰がいかが家って安らぎの場所にならないといけません。そこはずっと言い続けていきます。

(希望高等学園) 鳥越先生のおっしゃるとおりで、居場所をうまく作ってあげないと、本当に学校にも来られなくなるんです。父親とは何か、母親とは何かということをお伝えさせてもらっています。



コーディネーター 小林委員長

(CD小林) 自分の権利主張をする子どもたちっていますか。何の権利主張をするのか、お聞きしたいと思います。

(鶴山塾) 鶴山塾は自己主張ができない子だらけで、それが大きな問題なんです。自分のことが言えない、何がしたいか言えない。小学生・中学生、関係ないです。自己主張してくれると思ったらうれしくなります。コロナの3年間は外にも出られないから、テレビをみるか、YouTubeをみるか、ゲームをするかで誰ともしやべらない。親とも会話がなくなってます。

(希望高等学園) 自己主張の激しい子は多いです。そこでの対応は、否定はせずに一緒に失敗しようと思っっています。一緒に付き合っただけで納得させるんです。納得しないことには、次に進めないうです。本人がですね。

(CD小林) 鶴山塾の将来展望、希望高等学園のあるべき姿、今後の方針について伺いたいと思います。

(鶴山塾) 環境の変化に弱い子どもが多いような気がします。小学校から中学校へ、中学校から高校へあがる時不安が大きくなり、不登校へと繋がっていきやすいので、特に注意を払っております。進路を見つけられなかったり、高校中退の子には、青少年育成センターへつないでいくこともあります。

(希望高等学園) 大学進学について、今現在126校から指定校推薦をいただいております。企業からの求人も年々増加しています。ただ、職種の偏りもあり、すべての業種にもいけるわけではないので、より一層皆様のご理解とご協力をいただきたいです。子どもたちの選択肢を一つでも増やしていきたいというのが将来的な考えです。

(CD小林) 入塾者数、入学者数の推移、また、いじめ等に係る事象があればお聞かせください。

(鶴山塾) 11年前で40人台、令和元年前までが60人ぐらい、元年で70人で相当な人数ですが、コロナが広がりました。令和2年は95名の通塾生。これを6人で担当しました。令和3年も95名でした。毎年30名ぐらいは中学3年生がいますが、10名ぐらいは希望学園さんに入塾しています。

集団に適応できない、教室の40人中が無理という子が多いです。人と会

うのがだめ。人と接せられない。話ができない。特に同学年とはだめな子が多いです。

(希望高等学園) 7年前が35名で、その後年々増えて、現在150名です。新型コロナウイルスの関係で余計に拍車がかかったようです。鳥越先生のおっしゃるとおり、いじめとしては非常に少ないです。

(CD小林) 最後に何かこれは話しておきたいと思うことがあればお願いします。

(鶴山塾) 一人ひとりが笑顔になったり、元気になってほしいと、一人ひとりと関わっている中で、ご一報いただければうれしいです。どこにも繋がらない子はできるだけなしにしよう、学校に行けなくなったら鶴山塾に来て欲しい。

(希望高等学園) より一層、子どもたちの活躍できる場を皆さんのお力で作っていただきたいと思えます。就職先、アルバイト先とか1件でも多く受け入れていただきたい。子どもたちが卒業して安心して働く場所があれば良いなあと思っています。通信制高校だから将来がないって言うのは違います。通信制高校も大学に行けます、ちゃんと就職できますというのをお伝えください。

多くの方のフォーラム参加ありがとうございました。

今混迷している世相の中で、悩みや



話に関き入る参加者

問題を抱え、追い詰められ、最悪の選択をせざるを得ない日々のニュースに心を痛めずにはいられません。「多様な社会の中で子どもたちの居場所作りや私たちにできることはないか」との思いから、人に尽くす人間を尊重し合うということの大切さを再認識するために、鶴山塾と希望学園のお話を伺っております。大変厳しい環境の中でがんばっていただける前にプラス思考で一生懸命汗をかいた努力は必ず報われると思えます。身の回りの小さなことから、できることから取り組んでいく力をいただいたと思います。パネラーの皆様 ありがとうございます。



今、人権尊重の会では…



江田島旧海軍兵学校の視察研修を終えて

研修委員会副委員長 黒住 富夫

昨年まではマイクロバスで出かけていましたが、今年は大型バスで満席での研修になりました。朝7時30分出発、秋晴れの下、順調に走りましたが何分遠方なので、呉市内で昼食、江田島に入ったのは午後となりました。あらかじめ申し込みをしていた通りに江田島旧海軍兵学校に到着し、予定していた通り視察研修が始まりました。

案内役の方からの詳しく分かりやすい説明を受けました。明治時代からの創設と整備が進んだ建物は赤レンガや石造りの建物が多くあり、大きくて立派な建物は目を見張るものばかりでした。

資料館には、かつて日本海軍が所有した名高い艦船、それに立派な戦績を残した海軍大臣や名将の方々の業績、それに写真や肖像画がたくさん展示されていていたほか、特攻隊として出撃し、再び帰って来ることができなかった方々の資料もたくさんありました。

私の胸に強く残ったのは、特攻隊として両親に宛てた遺書の「お国のために」と「父上様 母上様、お父さん お母さん、お母さん、お母さん、今日まで育てていただきありがとうございます。私は立派に戦

つてきます」という文面です。

戦後生まれの私には、このように戦死された方々の本当の気持ちを探ることはできないかもしれないかもしれません。もし、私がこの立場で特攻隊員として出撃できるだろうか。また、私の子どもや孫たちがこのような遺書を残して逝ってしまったら、はたしてこの遺書に目を通すことができるだろうか？できません。どうか無事に帰ってきてください。戦死は何かの間違いでしょうか、いつまでもいつまでも待ち続けることでしょうか。

戦争ほど人権を踏みこむものはありません。たとえ貧しくても苦しくても自分の人生を自由に生きることはできるはずで、日本は先の大戦で深く反省をし、二度と戦争はしない国になっています。

しかし、世界では自国の領土のためや、民族の違いや、宗教の違いなどを理由に戦争や紛争が続いておられます。銃弾や爆弾が飛び交わぬ国がどんなに平和であり、そこに住むことがどんなに幸せかを示す国になることも必要ではないかと思いません。



人権尊重の教育推進協議会幹事研修会から

性の多様性を認め合う

～誰もが自分らしく生きられる社会をめざして～

事務局長 安藤 博文



性的少数者については、依然として社会理解が進まず、偏見や差別、配慮に欠けた対応などで、生きづらさを感じている状況など様々な問題があり、深刻な人権問題になっています。

そこで、本会の今年前期幹事研修会は、性的少数者について理解するきっかけにしようと、性の多様性に視点を置き実施しました。

※パースデイ(DVD)視聴後、20名の参加者は3つのグループに分かれて、思い思いの感想を出し合いながら、問題点や課題について掘り起こし、理解に向けて何が大切か、真剣な討議がなされました。

まず見えてきたのが、立場(他人・身内)の違いで受け止め方が違うということ、他人としてなら理解で

きても、自分の家族となると…です。

好意的に、受け止めてくれる人もいるが、好奇心な目で見られたりするのでも現実で、フラットな付き合いが難しいとの意見もありました。

また、現実問題としてトイレ、入浴、更衣室などはどうしたら良いのか、などの課題が上がりました。今後の取り組みとして、このような研修の機会を増やす、情報量を増やす

などして、LGBTの理解を日常生活の中で深めていけたら良い。そのためには時間も必要だとの声もありました。

これまでは講演会形式の研修が多かったですが、今回のような小グループでの話し合いの形が活発な意見発表となり、新たな発見もあり有意義な研修会となりました。

今後も様々なテーマで、様々な形で人権問題に対峙し、人権感覚を磨いていけたらと思います。

※パースデイ 笑花は誕生日の後、自分がトランスジェンダーであることを両親に打ち明け、将来は「男性」として生きていくことを意を決して告げる。突然のカミングアウトに激しく動揺する両親。娘の気持ちを受け止めることができない母は、心配ゆえに女性のままでいるように懇願したことで、かえって傷つけてしまう。周囲の考え方に触れる母は、次第に自分らしく生きようとする我が子の苦悩や願いに気づき、向き合っていくこととします。

活動・行事



本協議会は、情報交換、共同訓練、合同研修会などにより連携強化を図り、住民の隣保協同の精神に基づく自主的な防災・防犯活動による災害や犯罪等の防止及び軽減を図る目的で、15町内会を中心に、民生委員・愛育委員等各種8団体の計23団体で、平成27年4月に発足しました。また、令和4年3月には、災害発生に備え、美作学園と防災協定を締結しました。平成28年からコロナ禍を除き大月公園・弥生小学校・西苦田公民館で、令和4年からは美作大学を会場に、地区の防災訓練を実施してきました。毎回、地域住民・スポ少・園・小中学校等の教育機関、行政機関を中心に、300から400名程度の方々が訓練に参加しています。前回までは、土のう積訓練、避難誘導訓練、消火訓練、炊き出し訓練、AED講習等を実施してきました。特に今回は、『ゲリラ豪雨により昭和池が決壊し、宮川が氾濫、避難勧告が発令。』を想定し、マイ・タイムライン作成支援DVD上映、防災ARによる浸水体験、防災講話等の座学訓練を、熱中症対策として美作大学の室内で実施しました。

災害時に備え、マイ・タイムラインを作成し、家族間での共有が重要、日頃からの情報収集と事前準備が重要、自分から率先して避難することが大切、災害発

津山市連合町内会の取り組みから

西苦田支部自主防災連絡協議会

会長 高山 康晴



生時は近所での助け合いが大切。そのための、顔が見える関係が重要等、大変参考になる意見が訓練参加者から寄せられました。

津山市西苦田地域は、幸いにも甚大な災害に遭遇しておりませんが、いつ、どこで線状降水帯や台風による豪雨災害、地震災害等に見舞われるかわかりません。そのため、『日頃から危機感を持ち、準備。自分の命は自分で守る。』を基本に、ひとりでも多くの方に参加いただける防災訓練を企画・開催し、自助・共助意識を醸成していきたいと考えます。

令和5年6月25日

美作大学にて

人権啓発視聴覚教材・出前講座のご案内

「人権」をわかりやすく学ぶことができるビデオテープやDVDを用意しています。

個人・学校・企業・団体のご利用をお待ちしています。予約やお問い合わせは、津山市人権啓発課(アルネ・5階「さんさん」内)に。

「人権啓発視聴覚教材一覧」は市内公民館にも備えています。津山市ホームページ(人権啓発課)にも掲載していますのでご覧ください。二次元コードからも入れます。

人権出前講座も企業・公民館・町内会・各種団体など人権啓発活動の一環として計画してみてください。時間・内容についてはご要望に応じます。無料です。



津山市
ホームページ



津山市人権啓発課 ☎ 0868-31-0088 📠 0868-31-2534



関連団体の

地域と共に

公民館紹介

佐良山公民館 館長 川端 紀子

佐良山公民館は、昭和59年佐良山農業研修施設が建設された折、この施設内に移転し、現在に至ります。そのため館内にある加工室で味噌・甘酒・豆腐などを作れることが特徴の一つとなっています。

従来より、公民館と地域団体との連携は大変密です。今年度第26回を迎えた「さくら山時代祭」は、連合町内会佐良山支部最大の行事であり、公民館文化祭行事の一つです。地域の豊かな自然、歴史遺産を継承し、地域の交流を深めようと、毎年年力を合わせて開催し、多くの方が楽しむ行事となっています。

日常的にも、各種地域団体と公民館は、歩調をあわせる形で、様々な分野の活動に取り組んでいます。

以前、役員の方が、「常勤する人がいる公民館の存在は、地域にとって本当ありがたい。」と言ってくれたことがありました。

確かに、公民館は、地域の人々の思いを繋ぐ大切な役目を持つ場所なのだと思います。

主催講座においては、史跡をめぐる会や伝統食を継承する会、子どもの育ちを応援する会などありますが、サークル活動も活発で、10月開催の公民館発表会では、皆さん学習や活動の成果を存分に披露されます。



厳しいコロナ対策の時期を乗り越えた今、コロナ以前より、多くの方が集うことを求めその楽しさ、大切さを実感されているように思えます。そのニーズに応えられるよう、今後も地域の皆さんとともに歩んでいけたらと思います。

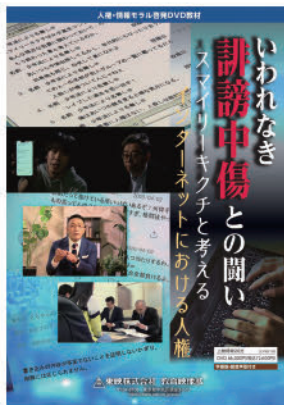
現在、公民館の施設は、老朽化が進み、耐用年数も過ぎたことから、浸水被害のなかった場所に、新設工事が進められています。建設予定地は、大変わかりやすい所に位置しており、今後は、より多くの方に利用していただけるのではないかと、新しい出会いもあるかと楽しみにしています。

本年度購入のDVD

「いわれなき誹謗中傷との闘い」(20分)

ネットでの誹謗中傷やデマが大きな社会問題となっています。命まで落とす人もいますし、社会的に大きなダメージを受けることもあります。

自身が誹謗中傷を20年以上にわたって受け続けながらも、闘ってこられている、スマイリーキクチさんとインターネットにおける人権を考えます。



「話せてよかった」(27分)

人権は日常の何気ない人と人との関係性の中にあります。職場や家庭内で振り返る中で、「人権」について話し合うきっかけとなるドラマ形式の作品です。PTA研修などでお役立てください。

- チャプター
 - 「手伝うんじゃなくて一緒に」～性的役割分担意識に気付く～
 - 「その人自身と向き合う」～偏見にとらわれない～
 - 「話せてよかった」～家族だからこそ確かめ合う～





令和5年度も人権について考えることを目的に、津山市内の小中学生が人権に関する「ポスター」「メッセージ」づくりに取り組みました。ポスターは2,153作品、メッセージは3,661作品（一般を含む）の応募がありました。いずれも豊かな感性で、人への思いやり、感謝の気持ち、いじめ防止など作者の思いが伝わる作品がそろいました。第75回人権週間に合わせて行われた『人権を考える市民のつどい（11月26日）』で表彰された優秀作品の一部を紹介します。

また、12月2日から11日まで津山市立図書館前ギャラリーでも展示されました。



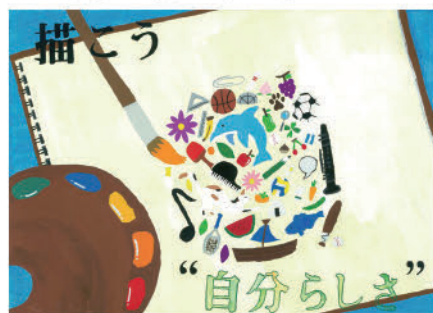
《小学校低学年の部》
北小学校 1年 三宅 優幸



《小学校中学年の部》
高倉小学校 4年 小林 七海



《小学校高学年の部》
東小学校 5年 小林 華子



《中学校の部》
津山東中学校 2年 鈴木 葵

ひとふれあい メッセージ2023

【最優秀賞】

《小学生の部》
気づいてよ 私の気持ち 心のいたみ
高野小学校 4年 小松 愛佳

《中学生の部》
言葉一つで枯れる花 言葉の種で咲く笑顔
勝北中学校 2年 下山 瑠心

《一般の部》
ふっつて ひとそれぞれに ちがうもの
市内在住 匿名

【優秀賞】

《小学生の部》
きみがにっこり ぼくもにっこり みんなにっこり
林田小学校 1年 江原 楓
だいじょうぶ きみにもあるよ いいところ
中正小学校 2年 中西 冠仁
分かるうよ 相手の気持ち 悲しみを
誠道小学校 3年 岩本 心優

人権を 守って未来 つなぐ人
鶴山小学校 4年 菅沼 湊平

受け入れよう 人それぞれの 多様性
誠道小学校 5年 川畑 結愛

だれでも 注目をしたり 親切に それほなの 思いやり
東小学校 6年 仁木 那穂

《中学生の部》
決めつけない 人それぞれの 心と身体
北陵中学校 3年 足立 妃音

《一般の部》
見ないふり それも本当はじめだよ
市内在住 岡本加奈予

編集後記

人権を一番踏みこむものは戦争です。現在、世界で起こっている武力紛争の数は56ということです。(2020年現在)
マスコミにほとんど載らないので、私たちが知らない戦いがこんなにあるのかと驚かされます。今も、子どもが大人が、どこかで命を落としています。戦争は始めるより終わらせるほうが

難しいという言葉どおり、今の戦争のひどさは目をおおむばかりです。
このような人権を考える広報紙を発行できるのは、平和な国に生きているからこそです。
戦うことを終えて78年。私たちはこれから何を選び何に向かって進んでいくのかを、しっかり考えていきたいと思ひます。
持続可能な地球であるための目標(SDGs)の16番は「平和と公平をすべての人に」です。

SDGsの全ての目標をいま一度、ゆっくり目を通してみてください。

- 【編集委員】
- | | |
|-------|-------|
| 須田 京祐 | 楽万 真一 |
| 小原 龍二 | 小椋 英子 |
| 岡本 輝昭 | 高山 康晴 |
| 神田 鉄工 | 渡部 明子 |
| 田口慎一郎 | 志水 由和 |
| 二木 幸子 | 能勢 旭 |
| 井上 郁子 | 青木 幹生 |